



# 10月 神無月

行楽シーズン真っ盛りですね。紅葉、温泉、味覚狩り・・・、マツタケのシーズンですよ。スポーツの秋、食欲の秋、読書の秋ですね。



皆さんにとっては、何の秋ですか？

さて、スポーツの秋と言えば、

世界陸上も終わりましたね。

棒高跳びのシンバエワも美しかったですが、やはり目が離せなかったのは、100メートル、

200メートルのタイソン・ゲイ（アメリカ）選手でした。あの筋肉、あのフォーム、記録とメダルを同時に獲得。”金・三冠”といわれ続けて、本当に三冠とっちゃうんだから凄いですね。このクラスの選手なら、同じくらいの才能があつて、同じくらいの努力を重ねて、並々ならぬ情熱を燃やして、しかし彼が、予想通り王者に輝きました。大会前の記者会見では、「こんな事を言うと、生意気だと思われるかもしれませんが・・・」と前置きして、「世界新を出したいんです」と言っていた彼の謙虚さに、とても好感が持てました。

自分の力を、いつも出し切れる平常心を持ちたいですね。



# ロータス林の 10月号 わくわく通信



19年9月20日発行

## 野生ゾウの略奪愛

インド東部ウエストベンガル州で、8月31日、野生のオスのゾウが、サーカスの飼育場を襲撃！！

オスのゾウは、4匹のゾウが飼われている飼育場に乱入し、メスのサヴィトリーに一目惚れ。オスのゾウとサヴィトリーは、ともに駆け落ちしたらしいです。

この事件、もし、サヴィトリーがサーカスに連れ去られる前に、恋愛関係にあったとしたら、略奪ではなくて、愛の救出劇。



胸がキュンとなる事件ですね。

- 出発後、すぐに寝るなよ 助手席で
- エコタイヤ 運転する人 重量級
- 車より 先に自分の 限界来
- 雨の日に タイヤが滑り 死にかけた
- 新車買い 距離をおきたい 子供たち

## 川柳 ドライブ編

★あなたが世界を変える日★  
十二歳の少女が環境サミットで語った伝説のスピーチ  
一九九二年六月十一日、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開かれた、国連の地球環境サミット。カナダ人のセヴァン・スズキという、十二歳の少女が、居並ぶ世界各国のリーダーたちを前にわずか六分間のスピーチをしました。スピーチが終わった時、政治家、各国の代表、会場の人々が皆、立ち上がって泣いていた。その言葉は、人々の強い感動を呼び、世界中を駆け巡り、いつしか「リオの伝説のスピーチ」と呼ばれるようになりました。「私たち一人一人の力が世界を変えていける」という彼女の言葉をぜひ読んでみてください。オススメします。

## なっちゃんの本 今月のオススメ本

## 喜多工場長のタイヤコラム① 人工尾びれ開発ドキュメント



タイヤメーカーのブリヂストンがイルカの尾びれを開発しているのをご存知ですか？

人工の尾びれを必要としているのは、沖縄の美ら海水族館で飼育されるバンドウイルカの推定 38 歳（どうして分かるん？）メスのフジ。3頭の仔を出産しているたくましい母親でしたが、5年前突然異変が起きました。感染症と、循環障害の為に尾びれの壊死が進行し、切断手術により一命は取り留めたものの、尾びれの75%を失ってしまいました。自由に動き回ることができないフジは、仲間から離れ、プールに浮かんでばかり・・・「このままでは死んでしまう」そう考えた獣医師は、ブリヂストンに「人工尾びれを作ってもらえないでしょうか？」と話をもち込みます。改良に改良を重ね、それでもまだ充分ではなく、改良型の人工尾びれの研究は続けられています。



企業で培われた技術が、違う方面でも活かされるって、素晴らしい事ですね

## ピーマン航空



バングラディッシュという国に「ピーマン（通称ピーマン）バングラディッシュ航空」という国営の航空会社があるらしい。その会社の有名なところは、着陸時に一旦着地してから再び着陸する‘ピーマンワンバウンド着陸’…。お客さんのほとんどはシートベルトをしていなくて、喫煙も自由。スッチーとは思えないほどの立派な体格のおばさんがスチュワーデスで、機内の最前列からは、コックピットが見え、まるでバスの客席から外を見るような光景なのだとか…。



遅れることもしばしばで、ひどいときには50時間遅れることもあるらしく、唯一料金の安いのが売りだそうです。

怖いもの見たさで、一度乗ってみたい飛行機ですね。

## 喜多工場長の

## タイヤコラム②

## ランフラットタイヤ



タイヤがパンクをすると、車は走れなくなります。無理に走ればタイヤ、ホイール、さらにはサスペンションを傷めます。以前に、パンクを知らずに走ったお客様がいらして、駆けつけた際には、タイヤがホイールから外れてしまいました。怖い！！

ところが、いよいよ、パンクしても走れるタイヤが登場しました。

最近良く聞く『ランフラットタイヤ』です。万一のパンクで空気が抜けても時速80kmのスピードで、約80kmの距離を走ることができます。

このタイヤ、今までのタイヤとは構造が違って、サイドのゴムの厚みが強化されていて、空気が抜けた後でも、タイヤがペシャンコにならないように支えるよう出て来ているんです。



交通量の激しい危険な状態で、自動車を停止してタイヤ交換をしなくてもよくなって良かったです。

ただ、普及してきたからといって、今お乗りのお車に履き替え出来るわけではありません。パンクしたことがわからないので、空気圧センサーが付いて、パンクをしたことを知らせてくれる警告等が付いていないと、走り続けてしまう恐れがあり危険です。自動車メーカーがランフラット向けに、独自の足回り設計を施していない車に装着すると、ハンドリングや制動装置に影響が出る可能性があります。法律上は現在規制されていませんが、メーカーでは推奨していません。

今現行の車で装着しているのは、ソアラとかBMWなど数種類ですが、普及が進められていますので新型車を購入予定の際には、候補に入れられてもいいですね。ちなみにお値段は3割高程。これが普及すると、逃走する犯人の車のタイヤを銃で撃って御用！！ってわけにはいなくなるかも…

